

『尊き我が命』

京都府

大谷高等学校

はらだ ゆうか
原田 優香

今日私は話を聞いて命とは何なのかを、すごく考えさせられる機会となりました。

突然、命とは何かと質問されても、すぐに答えることは私には出来ません。私は命とは一人一人異なる考え方が あるものだと思います。私の場合、命とは、自分として生きる人生を過ごすために与えられた限りのある大切なものだと思います。簡単に奪ったり勝手に傷つけたりしてはいけないものです。今回、岩城さんのお話を聞いて、なぜ普通に過ごしていた息子さんが見知らぬ人の身勝手な理由で暴力を振るわれ障がいが残り、苦しみながら死ななければならなかったのか、何も罪を犯していない人が悲しみ苦しまなければならぬのかと強く思いました。加害者の身勝手な理由、理由関係なしに人に対して暴力を与えることは大きな罪です。到底許されることはありません。なのに、当時の裁判では加害者に対して罰金三十万円と軽い刑罰で知らない間に判決が下されている状態、当然許せなかっただろうし、悔しかっただろうと思います。

被害を受けた息子さんは障がいを持ちながら生活すること、正直辛かっただろうと思います。思うように話すことも、手足を動かすことも出来ない状態、死んでしまいたいと思っても仕方がないと思います。もし、私が同じ立場になったら、きっとそう思うでしょう。でも、それと同時に被害者である息子さんの親族である岩城さんも相当苦しまれたと思います。我が子が苦しうに、辛そうにしているのに看病しか出来ないこと、周囲の人からの心無い言葉、息子さんとはまた別の辛さがあったと思います。それでも生きようとして、それを支えようとするお二人の間柄に感動しました。それと同時に、命とは尊くて、はかないものなのだとこの世のすべての人が理解して欲しいと強く思いました。

話が変わりますが、私も前に事故で伯父を亡くしています。幼い頃だったので記憶があいまいな所があるのですが、確かなのは多くの人が嘆き悲しんでいたことです。それほど命の終わりは突然訪れるものなのです。その命の終わり方を少しでも良いものにしたと思います。

今の時代、以前に比べたら被害者や被害者の遺族に対しての支援は普及しているとは思いますが。それでも、被害を受けた辛さ、そのせいで大切な人を失った悲しみは消えることもないし、治ることは一生ありません。そのことに対して、私たちは命の大切さや命を失うことの辛さなど、命について深く知り、理解することが大切なのです。そうすることで被害が減ったり、被害者・被害者の遺族が社会で過ごしやすくなったりするのだと思います。なので、私は今以上に命について考え、被害を受けた人や遺族に寄り添えるような人になりたいと思います。

犯罪とはもちろんあってはならないものです。人を恨んだり、ねたんだりしてしまうこと

は生きていく上で仕方なくあることだと思います。だからといって、誰かに暴力や暴言としてぶつけることは間違いです。犯罪がなくなるように、一人一人の命に対する考え方が良いように変わっていかばいいと思います。そして、誰もが幸せに過ごせる社会が出来ることを望み、そうなるように自ら動けたらなと思います。